

令和 2 年 度

## 小中学校の接続に配慮した外国語教育の 在り方に関する実践研究

仙 北 小 学 校	松 島 元 樹
仙 北 小 学 校	畠 中 知 希
仙 北 中 学 校	行 方 由 美
仙 北 中 学 校	中 目 由美子
学校教育課指導主事	山 内 浩

令和 3 年 1 月  
盛岡市教育研究所

# 目 次

I	研究主題	1	
II	主題設定の理由	1	
III	研究の内容と方法	2	
IV	研究の計画	2	
V	研究の実際	3	
VI	授業研究会	4	
	盛岡市立仙北小学校 5 年	授業者 松島 元樹	4
	盛岡市立仙北小学校 6 年	授業者 畠中 知希	9
	盛岡市立仙北中学校 1 年	授業者 行方 由美	14
	盛岡市立仙北中学校 2 年	授業者 中目由美子	19
	盛岡市立仙北小学校 6 年・仙北中学校 2 年合同授業		23
VII	研究のまとめ	29	
VIII	引用・参考文献	30	

## I 研究主題

小中学校の接続に配慮した外国語教育の在り方に関する実践研究  
～新学習指導要領に基づいた、小学校と中学校の連携の方法を考える～

## II 主題設定の理由

小学校において、今年度 2020（令和 2）年度から新学習指導要領が全面実施された。具体的には、小学校中学年から外国語活動を導入し、「聞くこと」、「話すこと」を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を「読むこと」、「書くこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視することとしている。来年度 2021（令和 3）年度からの中学校における全面実施を控えた今、小中連携の意義とその在り方が一層重要性を増している。

新学習指導要領解説外国語活動・外国語編の第 1 章総説 2 中学年の外国語活動の導入の趣旨と要点（1）には、平成 23 年度から高学年において導入された外国語活動の成果と課題について以下のようにまとめられている。

**成果** 児童の高い学習意欲と中学生の外国語教育に対する積極性の向上

**課題** ①音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていないこと。  
②日本語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習について課題があること。  
③高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められること。

小学校から各学校段階における指導改善による成果が認められるものの、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じる状況や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られる。

また、令和 2 年度学校教育指導指針では、授業改善の方向性として、以下のように示されている。

小学校外国語活動・外国語科

【授業改善に向けて】外国語教育に係る校内研修及び小中連携の充実を図ること

【今年度の重点】3「計画的な校内研修の実施」及び「小中の円滑な接続」に取り組むこと

○児童の進学先となる中学校及び同一中学校区の小学校との連携を充実させること

中学校外国語

【授業改善に向けて】小学校外国語との円滑な接続を図るとともに、高校の授業へのつながりを意識すること

【今年度の重点】3 小学校や高校における外国語の目標や指導の実際を知り、中学校の指導につなげること

○小学校の外国語の授業を定期的に参観するなど、域内の小学校外国語の推進状況を把握し、1 年時の円滑な導入にすること。

※3～6 学年の学習状況（学習履歴）を確実に把握すること

前次研究においては、「主体的にコミュニケーションを図る子どもの育成—新学習指導要領に基づく外国語活動・外国語における授業づくりを通して—」のテーマのもと、厨川小学校において、「目標を明確にした、連続性・発展性のある単元指導計画」「連続性・発展性のある一単位時間の指導過程」「『主体的にコミュニケーションを図る子ども』を育成する授業」の3点に主眼を置き研究を推進した。以下が、前時研究において見えてきた、今後の課題である。

R1 研究紀要—新学習指導要領に基づく外国語活動・外国語科における授業づくりを通して—

#### 課題

- (1) 新教材に基づいた単元指導計画の見直し
- (2) 必然性のある場や活動のバリエーションを増やすことと蓄積
- (3) 次の活動に生かす「振り返り」シェアリングタイムと振り返りシート
- (4) 評価（3観点評価）

以上のことを踏まえ、今年度の盛岡市教育研究所の英語班による研究員研究では、この小中連携を本主題として設定した。これまでの英語班で取り組んできた実践とその成果を受け継ぎながら、小中での交流を通してより系統的に資質・能力を育てられるように工夫を図りたいと考えた。また、地域や学校の実態、児童生徒及び教師の状況等を考慮しつつ、どのようなことを、どこから、どのように始めたらよいのか、どの学校でも生かすことができる具体的な実践を提案することを目指したいと考えた。

### Ⅲ 研究の内容と方法

#### 1 研究内容

研究推進に当たって、新学習指導要領に基づいた、小学校と中学校の連携の方法を考えるための柱として、以下の4点に基づいて、単元指導計画及び授業実践を行うこととした。

- (1) 楽しい授業で英語に慣れ親しみ、定着と習熟を図りながら、中学校英語へ円滑に接続させる方法を考えること。
- (2) 小学校外国語活動・外国語科から、中学校外国語への円滑な接続を図るための学校間、教員間の連携の方法を探ること。
- (3) 新しい学習指導要領に基づく、外国語教育における小中協同研究推進の具体的方策を探ること。
- (4) 学区の小学校と中学校が協力し、共に児童・生徒がコミュニケーションを図る資質・能力を育成する方法を考えること。

#### 2 研究方法

- (1) 学区小中連携の在り方に関する理論研究及び評価事例の作成
- (2) 授業を通じた実践研究
- (3) 小中連携による授業参観と検討

### Ⅳ 研究の計画

- |    |                            |
|----|----------------------------|
| 6月 | 役割分担、研究の計画、<br>研究の方向性の検討   |
| 7月 | 授業研究会①<br>(仙北中学校 行方由美)     |
| 7月 | 授業研究会②<br>(仙北小学校 畠中知希)     |
| 7月 | 小中交流授業<br>(単元の内容を共有した交流授業) |
| 8月 | 授業研究会③<br>(仙北中学校 中目由美子)    |
| 9月 | ～研究のまとめ                    |

## V 研究の実際

本研究においては、「人と人のつながり」「人と人をつなげる」、特に小学校教員と中学校教員が意欲的に「つながり」連携していくということを実践研究の柱として据え、小学校4年間+中学校3年間、さらにその後の高等学校3年間まで含む、英語学習10年計画の「つながり」をイメージし、小中学校異校種異学年交流の授業実践、その延長として小中間での学び合いにつなげたいと考え、授業実践に取り組んだ。児童生徒が、コミュニケーションの手段として英語を使って自分の思いや考えを伝えあうことに意義を感じることができるよう授業の在り方を探りたい。

### (1) 学区小中連携の在り方に関する理論研究及び評価事例の作成

愛知県立大学外国語学部教授の池田周氏は、小中「学びの接続」におけるポイントとして、各学校・学年で何が求められているのかを理解し、それぞれの役割を果たすことが大切であるとし、以下のように述べている。

小学校でまとまりのある表現として理解し、練習し、使えるようになったことを、中学校では、規則化しながら整理し、即興性や創造性を高める

つまり、小学校の外国語活動、外国語科では、「目的、場面、状況」が明確に設定された言語活動を通して「基本的なまとまりのある表現」として学んできているため、中学校では、それらを再度取り上げ、分析的に理解させていくこと、文法事項として整理すること、さらに、小学校で設定したものとは異なる場面や状況で活用できるよ

うに指導していくことが不可欠であり、そのことを小学校、中学校両方の教員が意識した上で、授業づくりを行わなければならないということである。

### (2) 授業を通じた実践研究

同じ中学校区に属する小中学校から各2名ずつ、計4名の研究員が、それぞれ授業実践を行った。単元の目標を生徒と共有し、その達成に向けた言語活動や練習の時間を確保するように組み立てた。そして、理論研究の通り、研究内容の柱である以下の3点に基づいた、単元指導構想及び1単位時間における授業を考えた。

#### ①「教材」の共有

例) Let's Try!や Junior Sunshine のデジタル教科書におけるチャンツ等を、中学校の授業でも活用する。

#### ②「内容」の共有

『自己紹介、できること、インタビュー、将来の夢、自分の住んでいる町の紹介、夏休みの思い出』など、小学校でたくさん聞いて、たくさん伝え合ってきたものを、中学校で改めて触れさせることで、小学校の学習を想起させる。

#### ③「方法(学び方)」の共有

小学校で学んだ表現に気づかせ、改めて中学校で引き出すために、**Small Talk**の手法を取り入れる。

### (3) 小中連携による授業参観と検討

研究員が、それぞれの授業を参観して研究協議を行った。異なる校種の指導計画を把握し、授業を参観して、子どもたちの思考や学習内容の系統性について話し合った。

## VI 授業研究会

盛岡市立仙北小学校 第5学年外国語科学習指導案

日 時 令和2年5月8日(金) 3校時

児 童 5年4組(男15女16)

授業者 教諭 松島 元樹

### 1 単元名 Lesson2 When is your birthday? 「クラスの誕生日ポスターを作ろう」 (Junior Sunshine5 開隆堂)

#### 2 単元について

##### (1) 教材観

本単元では、誕生日を尋ね合い、クラスの誕生日ポスターを作る活動を行う。誕生日を尋ね合うことを通して、児童は月名や日にち、季節を表す英語に出会う。誕生日は、児童が知りたいと思っていることの1つであり、友達と伝え合う楽しさを味わうことでコミュニケーションへの積極性が育つことが期待できる。また、クラスの誕生日ポスターを作るという目的のために、誕生日を尋ね合う必然性が生まれる。完成した誕生日ポスターは、1年間教室に掲示し、給食時間に誕生日を祝うなどして学級づくりに活用することができる。さらに、オーストラリアの写真を見て日本の季節の違いに気付いたり、日本の行事や古くからの月名などの話題から日本文化への理解を深めたりすることができる。

コミュニケーション活動においては、適切な反応や相槌をするようにさせる。誕生日を尋ね合う活動では、児童が自信をもって紹介したり、それを互いに温かく認め合ったりするような活動にしたい。友達同士でも普段の生活で話すことのなかった話題について情報交換し、互いの理解を深め、良好な人間関係づくりにもつなげたい。

##### (2) 児童観

5年4組の児童は、外国語に、興味関心を強くもち意欲的に取り組んでいる。歌やジェスチャー、各種のゲームなどには楽しみながら積極的に取り組んでいる。できるだけ英語を使おうとしたり、英語で表現された物語については挿絵やジェスチャーを頼りにして何とか理解しようとしたりする姿勢も見られる。

英語を使ったコミュニケーション活動は、楽しんで行う様子が見られる。交流の際の声は小さいものの、何とか話しかけよう、友達の話を聞いたら反応しようとする児童が多い。しかし、いつも同じ児童とばかり交流をし、なかなか広くクラスの友達と交流しようとならない児童もいる。そのため、各種のゲームでは、多くの友達に思わず尋ねてみたくなる、あるいは何とか伝えたいくなるような活動を仕組み、コミュニケーションを図ることや今まで知らなかった友達のよさを知ることの楽しさを感じ取らせたい。

##### (3) 指導観

単元の初めにゴールの姿を児童に提示する。その活動のためにはどんなことが必要であるかを話し合うことにより、活動の意欲付けを行う。そして、月名や日にち、季節

を表す語彙，表現に触れさせ，日本語と英語の音の違いや語の並びの特徴に気付かせていく。チャンツのリズムにのって繰り返し話したり，様々なゲームで友達と楽しんだりしながら活動できる場面を意図的に設定し，英語を使って話すことに慣れさせていく。

活動にあたっては，ペアやグループ，全体での活動など，様々な形態を取り入れることで，友達とのコミュニケーションを楽しみながら，英語表現に慣れ親しませていく。

### 3 単元目標及び評価規準

#### (1) 単元目標

クラスの誕生日ポスターを完成させるために，誕生日を尋ねたり答えたりして伝え合う。

[話すこと（やり取り）]

#### (2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・季節や誕生日を尋ねたり答えたりする言い方を理解することができる。また，大文字の形の特徴に気付いている。	・好きな季節や誕生日について，尋ねたり答えたりすることができる。	・他者に配慮しながら，好きな季節や誕生日を伝えようとしている。

### 4 単元計画（総時数6時間）

時	○目標 ・学習内容（指導内容）	評価基準	評価方法
1 (本時)	○クラスの誕生日ポスターを作るという単元の目標をつかみ，月名の言い方を知る。また，アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ・Let's listen1 ・Let's Sing ・Let's Play1 キーワードゲーム ミッシングゲーム ・Sounds and Letters (A, H, I, M)	本時では，記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても，教師が児童の学習状況を確認する。	
2	○月名を聞いたり言ったりするとともに，日にちの言い方を知る。また，アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ・Let's Play2 ・Let's Play3 ・Let's Play4 日にちの言い方に慣れる。ポインティングゲーム ・Sounds and Letters (Y, V, X, W, T)	本時では，記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても，教師が児童の学習状況を確認する。	
3	○月名や日にちを聞いたり言ったりするとともに，好きな季節を伝え合う。また，アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 ・Let's listen2 英語を聞いて，日付を書く。日付に合う絵を線で結ぶ。 ・Let's Watch and Think オーストラリアの写	【知・技】[聞くこと] ・月名や日にちを聞いて，おおよその内容を理解することができる。	書き込み点検

	真(または動画)を見て、気づいたことを話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Play5 好きな季節を伝え合う。</li> <li>・ Sounds and Letters (F, N, L, K, E)</li> </ul>		
4	○月名や日にちを聞いたり言ったりするとともに、誕生日や欲しいもの、好きなものを尋ねたり答えたりする表現を知る。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Listen3 4人の誕生日を聞き、線で結ぶ。</li> <li>・ Let's Play6 有名人になりきった教師に、誕生日を尋ねる。</li> <li>・ Sounds and Letters (Z, G, D, B)</li> </ul>	【思・判・表】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誕生日を尋ねたり答えたりする表現を聞いて理解することができる [聞くこと]</li> </ul>	書き込み点検
5	○誕生日や欲しいもの、好きなものを聞き取ったり、伝え合ったりする。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Try クラスの友達の誕生日を尋ねて、表に書く。クラスの誕生日ポスターを作る。</li> <li>・ Sounds and Letters (O, J, P, C)</li> </ul>	【知・技】 【思・判・表】 【態度】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の誕生日や好きなもの、欲しいものを聞き取っている。 [話すこと(やり取り)]</li> </ul>	行動観察 ワークシート
6	○クラスの誕生日ポスターを完成させる。また、アルファベットの活字体の大文字を書くことができる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューで得た情報を全体で出し合う。</li> <li>・ Sounds and Letters (S, Q, U, R)</li> </ul>	【知・技】 【思・判・表】 【態度】 <ul style="list-style-type: none"> <li>・インタビューで得た誕生日の情報を発表することができる。 [話すこと(発表)]</li> </ul>	行動観察 誕生日ポスター

5 本時の指導 (1/6)

段階	児童の活動	教師の働きかけ	・指導上の留意点 ◆研究の重点 <input type="checkbox"/> 評価 (方法)
導入 8分	1 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔で、大きな声で挨拶をする。</li> </ul> <p>Hello, everyone. I'm fine. How are you?</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の表現を使って友だちとあいさつをさせる。</li> </ul>	



	<p>2 “ABC song”を歌う。</p> <p>3 Small Talk を聞く。 担任の質問に答える。</p> <p>4 めあてとメニューを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ABC song を歌わせる。</li> <li>・ What’s the date today?</li> <li>・ Today is May 8<sup>th</sup>.</li> <li>・ Today is Sakura Momoko’s birthday. …</li> <li>・ 誕生日ポスターを見せる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学びに向かう楽しい雰囲気をつくる。</li> <li>・ クラスの誕生日ポスターを掲示する。</li> <li>・ 児童を会話に巻き込みながら話す。</li> <li>・ 本時のメニューを提示し、課題意識をもって活動できるようにする。</li> </ul>
<p>展 開 30 分</p>	<p>5 月名や季節の英語を発音する。</p> <p>6 Let’s Sing “Twelve Months”を聞いてゆっくり歌う。</p> <p>7 キーワードゲーム</p> <p>8 ミッシングゲーム</p> <p>9 Sounds and Letters (A, H, I, M)を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本の行事と関連付けて話し合い、月名を表す英語を導入し、発音させる。</li> <li>・ 数回聞いた後、音声なしでゆっくり歌ったり、音声に合わせて歌ったりすることで月名に慣れ親しませる。</li> <li>・ 月名を発音する際、初頭音が同じ単語でフェイントをかける。</li> <li>・ 数を増やしたり、絵の位置を入れ替えたりすることで徐々に難易度を上げる。</li> <li>・ 直線だけで書ける大文字を練習させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ゲームを取り入れ、繰り返し月名を発音させる。</li> <li>・ 本時の学習に関係のあるアルファベットを選び、必然性をもたせる。</li> </ul>
<p>終 末 7 分</p>	<p>10 振り返りをする。 ・振り返りシートに記入する。</p> <p>11 挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本時の学習を振り返って価値付ける。</li> <li>・ 発表させて、学びの価値付けを行う。</li> <li>・ 挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 視点を示して学習感想を書かせ、本時の学びを確認・自覚させる。</li> <li>・ 本時のねらいに照らして児童を称賛する。</li> </ul>

6 成果と課題

(1) 成果

- ア スモールトークで単元のゴールを提示し、クラスの誕生日ポスターを作ることへの目的意識をもたせることができた。さらに、学びの必然性に繋げることができた。
- イ チャンツやポイントゲームやミッシングゲームを取り入れ、新出の語をたくさん言わせることができた。
- ウ 単元を通して、毎時間アルファベットを書く時間を設定し、4線に文字を書くことへの抵抗感を減らしていくことができた。
- エ 振り返りの視点「できるようになったこと」「次にやってみたいこと」の2点を与えたことが、次時への意欲を生むことにつながった。

(2) 課題

- ア 同じスペルで始まっていたり、～ry で終わっていたりする語があるといった、語への気づきを促すことができなかった。本時のゲーム等の中で、言う順番を意図的に設定し、活動の中で気付かせるようにしたい。

(3) 児童の振り返り

	めあて	自己評価	振り返り (めあてについて・気づいたことなど)
第1時	月名の言い方を知る。	○	今日、できるようになったことは、自分の月の名前を言えるようになったことです。次は、日の言い方を覚えて自分のたんじょうびを言えるようになります。
	月名の言い方を知る。	5/8	○
第1時	月名の言い方を知る。	○	大文字をかくのがすごく楽しかったです。7月にお母さんのたんじょうびなので、お母さんのたんじょうびのときに英語でいわいた。
	日にちの言い方を知る。		第1時
第1時	月名の言い方を知る。	○	12月あても全部の川方一つ一つがちがいました。6月と7月が少しにりました。自分のたんじょうびが言えるようになりました。友達のたんじょうびを知って見たいです。

日 時 令和2年7月9日(木) 5校時

児 童 6年4組(男14女14)

授業者 教諭 畠中 知希

1 単元名 **Lesson4 Welcome to Japan.** 「日本のことをしょうかいしよう」  
(Junior Sunshine 6 開隆堂)

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、日本の食べ物や自然、行事、名所などについて紹介する。5年生では、自分の好きな色や形、食べ物、スポーツなどを紹介することにより、自分のことを相手に知ってもらうための活動をしてきた。今回は、自分のことから広がり、日本の食べ物や自然、各種行事、名所などについて英語で紹介できるようにする。自分が見つけた「日本のよさ」を共有し、日本を再発見・再認識させる。しかし、小学生なので日本各地に行った経験も少なく、知らないことが多い。そこで、社会科等の学習を関連させて調べ、学んだことも生かすことができるようにしたうえで発表会を開くことができるようにする。伝える相手(ALT, 中学生)を意識して発表することにより意欲的に取り組むことができると考える。

(2) 児童について

児童はこれまでに、外国語活動を4年生で15時間、5年生で30時間程度学習している。英語を用いた活動に抵抗が少なく、楽しみながら英語を使う児童が多い。しかし、正確に話さなければならないと強く思うあまり、声が小さく、決まった相手とだけしか話すことができない児童もいる。自分が調べたことを多くの人に知らせることを通して、何度も発話する機会を設け慣れ親しませていく。徐々に自信をもち、伝えることを楽しむことができるようにしていきたい。

(3) 小中連携について

本単元では、発表の相手を中学2年生とする。小学校のとき2歳年上だった先輩たちは、中学生になると知識が豊富になり英語も上手に話すことができるようになることを実感することになる。中学生への尊敬の気持ちやあこがれる気持ちが強くなるとともに、中学での学習への期待も生まれてくる。

(4) 指導にあたって

単元の初めにゴールの姿(日本のよさ発表)を児童に提示する。その活動のためにはどんなことが必要であるかを話し合うことにより、児童と共に学習計画を立てる。日本のよさを説明するために必要な語や表現を児童から引き出し、ゲームやチャンツ等を用いて慣れ親しませていく。さらに、「日本のよさ」の発表はどのような順序で話したらよいか整理させるようにする。発表の相手は友達、中学生、ALTと3回になることから、それぞれの場面において目的意識をもたせて発表に臨ませる。発表の後は自分を振り返り、英語を使って伝えることができたことを自覚させる。

### 3 単元目標及び評価規準

#### (1) 単元目標

日本文化についてよく知ったり相手に日本文化についてよく知ってもらったりするために、日本の行事や食べ物などについての短い話を聞いて概要を捉えたり、自分が好きな日本文化などについて、伝えようとする内容を整理した上で、話したりすることができる。

#### (2) 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	日本各地の名所や自然，行事，食べ物等についての紹介を聞いて，理解することができる。		
話すこと 「発表」	<p>&lt;知識&gt; 日本各地の名所や自然，行事，食べ物等に関する語句，<b>We have～. It's ～. You can enjoy ～.</b>の表現について理解している。</p> <p>&lt;技能&gt; 日本各地の名所や自然，行事，食べ物などについて，日本各地の名所や自然，行事，食べ物等に関する語句，<b>We have ～. It's ～. You can enjoy ～.</b>などを用いて，考えや気持ちを話す技能を身に付けている。</p>	相手によりよく分かってもらえるように，日本の行事や食べ物，自分の好きな日本文化などについて，考えや気持ちなどを話している。	相手によりよく分かってもらえるように，日本の行事や食べ物，自分の好きな日本文化などについて，考えや気持ちなどを話そうとしている。

### 4 単元計画（総時数6時間）

時	目標	学習内容 (指導内容)	評価				
			知技	思判表	態度	評価基準	評価方法
1	日本の食べ物，自然，行事，名所の言い方を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Small Talk</li> <li>・ Let's listen 1 何のことについて話しているかを考える。</li> <li>・ Let's Play 1 ミッシングゲーム</li> <li>・ Let's Chant</li> </ul>	<p>本時では，記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても，教師が児童の学習状況を確認する。</p>				
2 本時	日本のよさの説明を聞いたり話したりする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Small Talk</li> <li>・ Let's Chant</li> <li>・ キーワードゲーム</li> <li>・ カードめくりゲーム</li> </ul>	<p>本時では，記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても，教師が児童の学習状況を確認する。</p>				

3	日本の紹介の仕方を理解し、日本について紹介したいことを考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Small Talk</li> <li>・ Let's Chant</li> <li>・ Let's listen 2</li> <li>・ Let's listen 3</li> <li>・ Let's Play 4</li> </ul> 日本について発表したいこと	聞			<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本各地の名所や自然，行事，食べ物等についての紹介を聞いて，理解することができる。</li> </ul>	行動観察 書き込み 点検
4	日本のことを紹介する内容を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Small Talk</li> <li>・ Let's Chant</li> <li>・ Let's Play 5</li> <li>・ Let's Play 6</li> </ul> 日本のことについて紹介する文を考え，完成させる。				本時では，記録に残す評価は行わないが，目標に向けて指導を行う。児童の学習状況を記録に残さない活動や時間においても，教師が児童の学習状況を確認する。	
5	日本のことを紹介し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Chant and sing</li> <li>・ Let's Play</li> <li>・ Let's Try</li> </ul>			発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相手によりよく分かってもらえるように，日本の行事や食べ物，自分の好きな日本文化などについて，考えや気持ちなどを話している。</li> </ul>	行動観察
6	日本のことを紹介することができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Chant</li> <li>・ Let's Try</li> </ul> ALT を相手に，日本のことを紹介する発表会をする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元の振り返りをする。</li> </ul>	発	発	発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日本各地の名所や自然，行事，食べ物などについて，日本各地の名所や自然，行事，食べ物等に関する語句，We have ～. It's ～. You can enjoy ～. などを用いて，考えや気持ちなどを話している。</li> <li>・ 相手によりよく分かってもらえるように，日本の行事や食べ物，自分の好きな日本文化などについて，考えや気持ちなどを話している。</li> </ul>	行動観察 ワークシート

### 5 本時の指導（2／6）

(1) 目標 日本の食べ物，自然，行事，名所の紹介の仕方を理解することができる。

(2) 指導にあたって

#### 【自己肯定感を高める対話活動】

- ・ スモールトークで児童と対話しながら日本を紹介する方法を示すことで，これからの活動に自信をもって臨むことができるようにさせる。

- ・ ゲームの中で，単語→表現と段階を追って外国語に慣れ親しませることで，自然と日本を紹介するときのフレーズを使えるようにしたい。

【自己肯定感を高める振り返る活動】

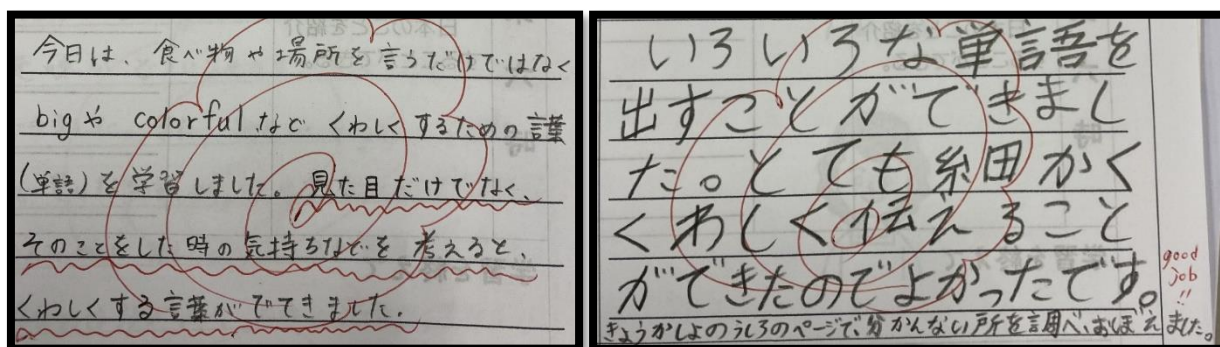
- ・ねらいに沿って児童の学びを振り返り、授業のポイントを価値づける。
- ・単元内の位置づけから、本時における適切な視点を示して学習感想を書かせ、自己の学びを確認・自覚させ、認めていく。

(3) 展開

段階	児童の活動	教師の働きかけ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点</li> <li>◆研究の重点</li> <li>評 評価 (方法)</li> </ul>
導入 7分	1 挨拶をする。 <b>Hello, everyone. I'm fine.</b> <b>How are you?</b> 2 めあてとメニューを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・笑顔で、大きな声で挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習の表現を使って友だちとあいさつをさせる。</li> <li>・本時のメニューを提示し、課題意識をもって活動できるようにする。</li> </ul>
展開 28分	3 <b>Small Talk</b>  4 <b>Let's Chant</b>  5 キーワードゲーム  6 カードめくりゲーム ①グループ内で順番を決める。 ②TVにテーマとなるピクチャーを映す。(mountain) T: <b>[Great]</b> Mountain パン・パン (手拍子) C1: <b>[Big]</b> Mountain パン・パン C2: <b>[Green]</b> Mountain パン・パン C3: <b>[Beautiful]</b> Mountain T: 「・・・」 ③言えなくなったら新しいカードをめくって、②の活動を繰り返す。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のおすすめの日本を紹介する。</li> <li>・語や表現とマッチするようなジェスチャーを用いる。</li> <li>・ピクチャーカードを用いる。</li> <li>・ボランティアを2名選出し、教師とデモンストレーションをする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴールの姿を示すとともに、日本の食べ物について、児童とかけあいながら紹介し、児童同士の対話につなげる。</li> <li>・ジェスチャーを用い、楽しみながら日本を紹介する言い方に慣れ親しませる。</li> <li>・やり方を変えながら繰り返し表現に慣れさせる。</li> <li>・説明するためにはどのような言い方や言葉が合っているかについて考えさせる。</li> <li>・これまで <b>Small Talk</b> や学習の中で使った形容詞のどれがふさわしいか考えさせながらマッチングさせていく。</li> <li>・子どもたちは、グループの真ん中にカードの山を置き、めくっていく。</li> </ul>

終 末 10 分	<p>7 振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに記入する。</li> <li>○今日の授業でできたこと</li> <li>○気づいたこと</li> <li>○次にやりたいこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ふりかえりを発表させ、学びの価値付けを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆本時のねらいに沿って児童の活動と本時の学習のポイントを振り返る。</li> <li>◆視点を示して学習感想を書かせ、本時の学びを確認・自覚させる。</li> </ul>
	<p>8 挨拶をする。</p>	<p>例) 今日はおすすめるものがどんなのかを説明を加える言い方を知ることができました。オリンピックで外国の方が日本に来たときに言えたらいいなあと思いました。ジェニファー先生にわたしのおすすめがしっかり伝わるように学習していきたいです。</p>	<p>例) 今日は、日本のよさをもっとくわしく紹介する仕方を知ることができました。天ぷらを天つゆや塩で食べるとおいしいことや刺身にはわさびをつけてしょうゆで食べることなども紹介できたらいいなあと思いました。</p>

## 6 児童の振り返りから



## 7 成果と課題

### 〈成果〉

- ・単元のゴールを「中学生に日本のよさを伝える」としたことで、相手意識をもちながら単元を通して意欲的に学習を進めることができた。
- ・たくさんの形容詞を話す必要性が生じる活動において、児童は、自然とたくさんの形容詞が言えていた。[Big/Small/Green...] Mountain など普段使っている言葉の中にも多くの英語の形容詞があることに活動の中で気づき、英語として言えたことは自己肯定感の高まりにつながっていた。
- ・自分たちで調べたり対話したりしながら、表現について主体的に活動したり思考したりする姿が見られた。

### 〈課題〉

- ・児童は、自国のよさについて、授業者が思っているより意外と知らないことに驚いた。知っていても自分が伝えたい日本のよさを英語として言語化していくことに困難を感じている児童にどこまで手を差し伸べればよいか迷いがあった。
- ・語彙に関する気付きを児童に言わせるまで待てなかった。
- ・対話活動の途中で、児童のよい姿を広め、より質の高い活動へと変化させる必要があった。

盛岡市立仙北中学校 第1学年英語科学習指導案

日 時 令和2年7月3日(金) 5校時  
学 級 1年7組(男14 女17)  
指導者 T1 教諭 行方 由美  
T2 教諭 鹿川 淑子

- 1 単元名 **My Project 1** 自分のことを話そう (**Sunshine English Course 1** 開隆堂)
- 2 単元について

本学級の生徒は、明るく元気で、学習規律も概ね身につけており、新しい知識の習得や活用することに意欲的に挑戦しようとする姿勢が見られる。ペア活動やグループ活動での交流も協力して行うことができる。各 **Program** での新出表現を用いて自己表現をする活動を積み重ねてきているので、既習表現を用いながら、構成を整理して原稿を作り、スピーチできる力を付けさせたい。

この単元には新出の文構造はなく、既習事項である **be** 動詞・一般動詞の肯定・否定文、名詞の複数形等を活用して、自分のことを紹介するスピーチを行うことをねらいとしている。本校 **Can-Do** リスト話すこと(発表)－2「3～5文程度で自己紹介や人の紹介を口頭ですることができる」、書くこと－2「簡単な自己紹介文や人を紹介する文を5文以上書くことができる」を主眼においた指導に適した教材である。中学校での既習事項に加え、**be good at** ～や **live in** ～など、学校や家庭での生活について表現する言語材料が「参考」として紹介されている。さらに、小学校外国語活動においてそれぞれの **Unit** で慣れ親しんできた表現を使えば、バリエーション豊富な自己紹介をすることができる。構成の工夫としては、聞き手にとって整理しやすい流れにすることや、疑問詞 **what, how many** や **Yes, No** 疑問文を用いて問いかけをする文をいれることなど、聞き手を意識させたい。

全体の前で発表する活動は中学校に入学して初めてである。1学期の学習の集大成として、各自目標を立てて活動に臨ませたい。原稿作成においてはモデル文の構成を元に、伝えたいことが明確に伝わる内容、文章構成になるように指導する。またグループでの交流を通して、英文の精度を上げさせながら、英文の内容や発表の仕方を工夫させたい。大きくクリアな発音で、原稿なしでも自信をもって発表できるように練習を行わせ、達成感を持って初めてのスピーチ発表を終えられるよう支援したい。

- 3 単元目標及び評価規準

- (1) 単元目標

- ・文構造や文章構成に注意して、自分のことについて5文程度のスピーチ原稿を書く。
- ・書いた文章をもとに、適切な音声で、聞き手に伝わるようにスピーチをする。
- ・自分のことについてのスピーチ原稿作りやスピーチの活動に積極的に取り組む。



(2) 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
自分のことについてのスピーチ原稿作りやスピーチの活動に積極的に取り組んでいる。	①文構造, 文章構成に注意して, 自分について7文以上のスピーチ原稿を書くことができる。 ②書いた文章をもとに, 適切な音声で, 聞き手に伝わるようにスピーチすることができる。		

4 単元計画 (総時数4時間)

小単元名	時間	主な学習内容
My Project 1	1	自己紹介に使える表現を振り返り, 自分のことを話す。【本時】
	1	モデル文から構成を学び, 原稿の構想を考え, 原稿を書く。
	1	4人グループで交流をして, 原稿を手直しする。
	帯で	スピーチのリハーサルを行う。(3分×4回程度)
	1	書いた原稿をもとにスピーチをする。発表を振り返る。

5 本時の指導 (1/4)

(1) 目標

- ・既習表現を用いて, 自分のことを英語で話すことができる。(表現)
- ・自己紹介に使える表現を思い出し, 自分のことについて積極的に表現しようとしている。  
(関心・意欲)

(2) 「小中の接続を意識した指導」の工夫

- ・既習表現を思い出す場面で, 小学校外国語活動で慣れ親しんだ文を想起させる。生徒から出てこなかった場合には, 教師が紹介する。
- ・本時は書くことはせず話すことに留め, まずは音声で「言える」という実感を持たせる。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点と評価 ( <input type="checkbox"/> )
導入 15分	0 新出単語の書き方練習。(3分前)	0 「読みながら書く」を意識させる。
	1 英語であいさつする。	1 曜日, 天気も聞き合わせる。
	2 単語テスト・次時の単語練習	2 語彙の紹介では本時の活動でも使用することを示唆する。(躓いている生徒を支援・宿題点検を分担)

	<p>3 英語の歌</p> <p>4 教師のモデルを見て，課題を把握する。</p>	<p>3 歌詞を見ながらできるだけ歌ってみるよう促す。(速読力，音声と文字の結びつきに気づく)</p> <p>4 教師2人がモデルとして自己紹介し，ゴールのイメージをつかませる。</p>
展開 30分	<p>5 教科書のモデル文を聞いて，内容を理解する。</p> <p>6 モデル文を音読して，自己紹介に使える表現を確認する。</p> <p>7 モデル文のまねをして自己紹介する文を言ってみる。(ペア活動)</p> <p>8 小学校時代に慣れ親しんだ表現を思い出す。</p> <p>9 もう一度自己紹介に挑戦する。</p> <p>ペアに→参観の先生に→全体に</p>	<p>5 最初は閉本してCDを聞かせる。内容をできるだけたくさん聞き取らせる。</p> <p>6 既出の表現は簡単に確認し，新出の表現はモデルAとBを比較しながら導入する。</p> <p>7 モデル文から自分のことを表現できる文を選ばせ，5文程度でペアに伝えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>既習表現を用いて，自分のことを英語で話すことができる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【表現：観察，発表】</b></p> </div> <p>8 生徒から出てきたものを板書する。出てこなければ教師が紹介する。</p> <p>9 1回目よりも紹介文を増やせるように励ます。中学校では未習でも，知っている，聞いたことがある表現は自由に使ってよいものとする。多少のミスは許容。参観の先生に対して伝えることで伝わった実感と自信を持たせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自己紹介に使える表現を思い出し，自分のことを積極的に表現しようとしているか。<b>【意欲：観察・発表】</b></p> </div>
終末 5分	<p>10 本時の振り返りを行う。</p> <p>11 次時の予告を聞く。</p>	<p>4 視点(下記)を示して，ミニノートに振り返りを記入させ，記入したことを交流することで，認め合いや気づきを促す。</p> <p>①本時でわかったこと，できるようになったこと ②次時に頑張りたいこと</p> <p>11 次時は自己紹介文の構想を立てて，書き始めることを予告する。</p>

## 6 成果と課題

### (1) 成果

- ア 小学校外国語活動で慣れ親しんできた表現を想起させる場面を取り入れたところ、予想以上に小学校での学習を覚えていることがわかった。これまでの指導では1学期に指導した内容を中心に自己紹介文を作成させてきたが、指導時期にこだわらずに生徒が使用したい表現を使わせることで、より生き生きと活動に取り組むことができ、小学校の学習とのつながりを生徒自身も実感できたことを、振り返りから読み取ることができた。
- イ 本時の活動では書くことはせず、口頭での自己紹介をゴールに設定したが、そのことが生徒のハードルを下げ、短時間でよりたくさんの自己紹介文を言えていた。「言えた」という実感が自信となり、次時の活動（スピーチ原稿の作成）への意欲へつながった。
- ウ 授業参観の先生方に対して自己紹介を伝える場面を取り入れたことで、「伝える」ことをより意識した自己紹介ができていた。中には自分の自己紹介に関連する内容で聞いている先生に質問する生徒もいた。

### (2) 課題

- ア 教科書のモデル文を見ながら話す生徒が多くいた。どの程度既習事項が身についているか、思い切って教科書を持たずに活動させてみるもよかった。
- イ 言語の機能を考えると、「自己紹介」には相手がつきものであり、一方的に話す「スピーチ」いうスタイルは、本来そぐわないもののようにも思える。ゴール活動を単純に「一斉スタイルのスピーチ」と決めてしまわずに、様々な形式を考えていきたい。

### (3) 生徒の振り返り

7/3 (金)  
今日は、自己紹介の仕方が分かりました。  
小学生の時よりも自分のことをくわしく言えるようになりました。  
発音が下手なのに先生に聞きまわがえりれています。次の改善していきます。

7/3  
今日は、自分の自己紹介をして、今日の学習を牛かして言うことができてよかった。あと、5文は言えてよかったです。もうちょっと練習したいです。

7月3日  
今日、1学期のまとめの振り返りが終わりました。小学校の時に習ったことをつかって、少しづつ進められたけれど、しっかり言えたのでよかったです。

7/3(金)

振り返り

今日は、4人の先生に自己紹介することや、5文  
ぐらいの自己紹介をすることができました。12の文  
で12の情報だけでなくもうおしつ17付えたりでき  
たらしいです。

No.

Date

7/3

今日は、今日の授業で、お話し合える事が、自信がうまくなった。

7/3

今日は自己紹介の話を聞いた。初めはたどたどしく、たどたどしく  
小学校のこととかを思い出して、文をつくらせて楽しく会話をすることが  
できました。

7/3 今日は色々な先生方が来て12組さんで12人  
が自己紹介がうまくいってよかった。  
ALTの先生のような発音はいいので、一文一文の  
ペースをこたえたい。

7/3(金)

最初の時より、後の方が教科書を見ながら  
やることをはっきり自己紹介ができた。  
次は、今の前より早く自己紹介が

盛岡市立仙北中学校 第2学年英語科学習指導案

日 時 令和2年8月27日(木) 4校時  
 学 級 2年7組(男17女18)  
 指導者 教諭 中目 由美子

1 単元名 PROGRAM6 A Work Experience Program  
 (SUNSHINE ENGLISH COURSE2 開隆堂)

2 単元について

本学級は、男女の仲も良く、和やかな雰囲気の中で学習ができる。小学校で学んできた表現活動が土台にあり、英語学習に親しみを持つと共に関心意欲が高い生徒も多く、個人やペアでの活動にも比較的積極的に取り組むことができる。しかし個人差は大きく、特に書く活動になると、個別に支援を必要とする生徒も少なくない。ペアやグループでの活動を意図的に取り入れながら、教えあい学習の時間を大切に、共に学んでいく姿勢を育てたい。

本単元では、不定詞の名詞的用法・副詞詞的用法・形容詞的用法を使って、「自分のしたいこと」、「行動の目的」、「何をするためのものか」を英語で表現する能力とそれらを相手と伝え合う能力を培うことを目指している。特に、名詞的用法については、小学校外国語活動で学習しており、聞くこと、話すことについては親しみがあるものと思われる。そのことを踏まえ、文構造を段階的に理解させながら言語活動につなげたい。

3 単元目標及び評価規準

(1) 単元目標

- ・自分のしたいことを言うことができる。
- ・行動の目的をいうことができる。
- ・何をするためのものかいうことができる。



(2) 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
自分の考えを積極的に話したり書いたりしている。ペアと積極的に対話しようとしている。	自分の考えを話したり書いたりすることができる。基本文を使い、ペアとのやり取りができる。	まとまりのある英文を読んでその内容を把握することができる。	不定詞の文の形や意味・用法を理解することができる。

4 単元の指導構想単元計画(総時間7時間)

小単元名	時間	主な学習内容
Section1	2	不定詞の名詞的用法を用いて、したいことについて表現をする(本時)。本文の内容理解。

Section2	2	不定詞の副詞的用法を用いて、したいことについて表現をする。本文の内容理解。
Section3	2	不定詞の形容詞的用法を用いて、したいことについて表現をする。本文の内容理解。
まとめ	2	パフォーマンステスト（職場体験学習インタビュー）／単元テスト

## 5 本時の指導（1／7）

### （1）目標

- ・不定詞の名詞的用法を用いて、ペアで休日の計画を立てることができる。  
(表現) (関心・意欲)
- ・不定詞の名詞的用法の文構造を理解し、正しく用いることができる。(知識・理解)

### （2）「小中の接続を意識した指導」の工夫

- ・既習表現を思い出す場面で、小学校外国語活動で慣れ親しんだ文を想起させる。小学校で用いたチャンツを思い出しながら、言語活動を振り返り、中学校で学習する内容へとつなげていく。

### （3）展開

段階	学習活動	指導上の留意点と評価（ <input type="checkbox"/> ）
導入 10分	0 歌（3分前） 1 英語であいさつする。 2 小学校既習のチャンツ 3 本時の課題を把握する。	0 授業の雰囲気作りをする。 1 元気に挨拶をする。 2 小学校外国語活動を振り返る。 3 教師がモデルを提示し、ゴールのイメージをつかませる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <b>Today's Goal</b>：友達と自由に休日の <b>Dream Plan</b> を立てよう。         </div>		
展開 35分	4 教科書のモデル対話を聞いて、内容を理解する。 5 モデル対話を音読する。 6 文の構造を理解する。 7 表現を口頭で練習する。 8 教科書 <b>Let's try</b> のモデル練習後、ペアになり、休日になりたいことを、日本語を使わずに言い合う。(ペア)	4 最初は閉本して CD を聞かせる。ポイントとなる表現に気付かせる。 5 モデル対話を通して重要表現の形を練習させる。 6 文のしくみを理解させる。 7 教師が指示した日本語のまとまりを英語で口頭練習させる。 8 何も制約がない条件で、自由なプランを言い合えるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">             本時の表現を用いて、積極的に話そうとしているか。【意欲：観察】           </div>

	<p>9 ペアでお互いに言い合った内容をワークシートにまとめる。</p> <p>10 他のペアのプランをお互いに見て、交流し合う。</p> <p>11 数ペアがプランを発表する。</p>	<p>9 ペアで A3 版のシートに記入させる。基本の文型ができていれば、未習の語についてはあまりこだわらないようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>本時の表現の基本の形を理解しているか。</p> <p style="text-align: center;"><b>【知識・理解：観察】</b></p> </div> <p>10 様々なプランを見合い、交流させる。</p> <p>11 他のペアのプランを聞きながら、文法事項も確認させる。</p>
<p>終 末 5 分</p>	<p>12 本時の振り返りを行う。</p> <p>13 次時の予告を聞き、挨拶をする。</p>	<p>12 視点（下記）を示して、ミニノートに振り返りを書かせる。</p> <p>① 本時でわかったこと、できるようになったこと</p> <p>② 次時に頑張りたいこと</p>

ペアでプランを考えている様子



各ペアのプランを見て回る様子



良いと思ったプラン用紙には☆のシールを貼っていく



ミニノートに振り返りを書く様子



## 6 成果と課題

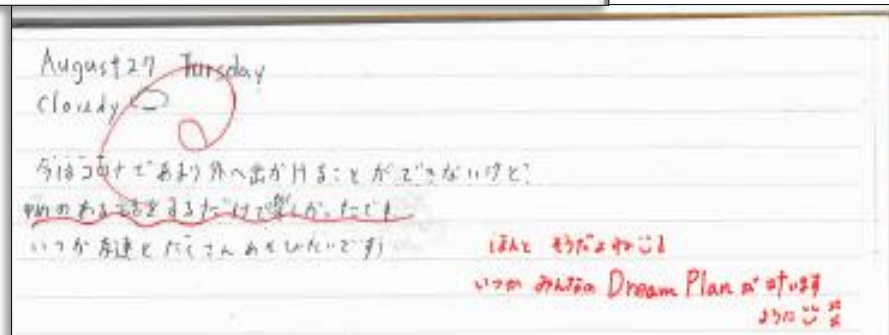
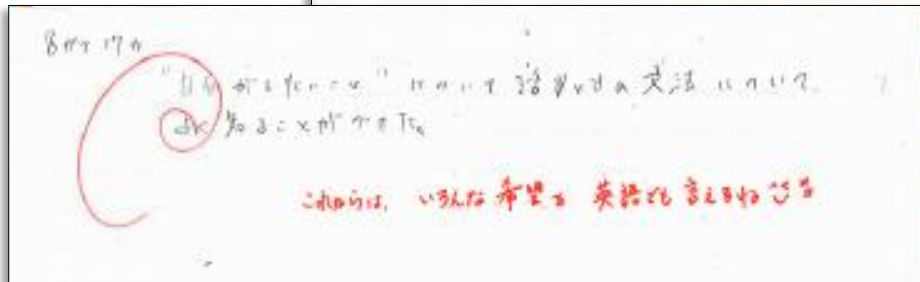
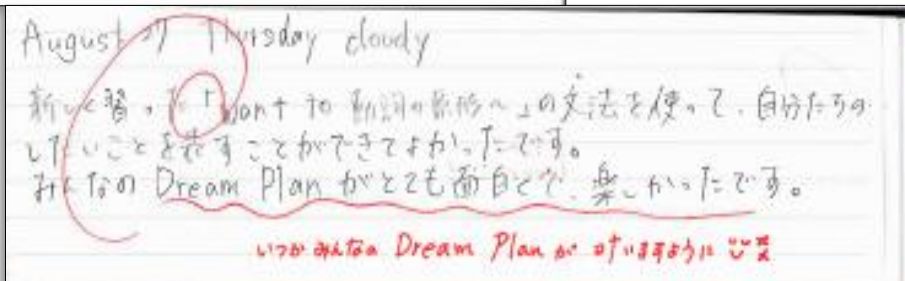
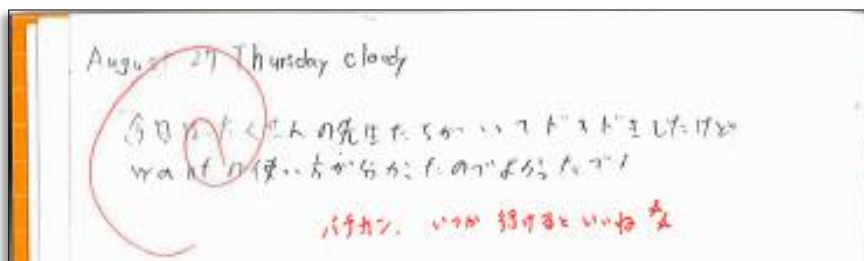
### (1) 成果

- ・小学校では **want to be**～や **want to go to**～の表現を音声では学習している。  
このことを踏まえ、小学校で学習したチャンツを導入に取り入れ、リズムに乗り音声から入った。生徒の「聞いたことがある」、「話したことがある」という感覚を活かし、スムーズに中学校の文法事項へと移行ができたと思われる。
- ・小学校と中学校の教員の連携により、小学校の先生方から活動のヒントをたくさんいただくことができ、中学校の言語活動においても活かすことができた。

### (2) 課題

- ・ペアで交流しながら、話す活動をメインにしたが、書く活動になるとペアや個人によっては多くの時間を要するのが現状である。書く力、文章構成の力等にも重点を置く必要がある。

《生徒の振り返りノートより》





盛岡市立仙北小学校第6学年・盛岡市立仙北中学校第2学年 外国語科学習指導案(合同授業)

日 時 令和2年7月20日(月)

場 所 仙北小学校 体育館

児 童 盛岡市立仙北小学校

①6年3組29名, 6年4組28名 ②6年1組30名, 6年2組29名

生 徒 盛岡市立仙北中学校

①2年3組34名

②2年5組35名

授業者 仙北小 ①畠中・齊藤

②鈴木・辻

仙北中 ①行方

②中目

1 単元名

**小学校** Lesson4 Welcome to Japan. (Junior Sunshine 6 開隆堂)

**中学校** Program 5 Gulliver's Travels (Sunshine English Course 2 開隆堂)

2 単元目標及び指導計画(省略)

3 本時の指導(小6/6, 中9/9)

(1) 目標

**小学校** 基本的な表現を用いて, 聞き手を意識しながら, 友だちと協力して日本のことを紹介する。

**中学校** ・ There is[are]~, 接続詞 when, if などを用いて, 都道府県の名所や食べ物などを英語で紹介することができる。(表現)

・ 発表の仕方を工夫し, 相手に伝えようと意識して発表する。(関心・意欲)

(2) 指導にあたって

**小学校**

【自己肯定感を高める対話活動と小中接続にあたって】

・ 中学2年生を相手に自分たちの自慢の仙北小学校を英語で紹介する。自分の話す英語が通じる喜びを対話活動や発表を通して実感させる。児童は, 外国語を2年間学んだ自分たちの姿として中学生を見ることができると考える。また, 中学2年生は, この交流を通して自分の成長を実感できるものとする。

【自己肯定感を高める振り返る活動】

・ 板書をもとに本時の活動を振り返り, 学習を価値付ける。  
・ 視点を示して感想を書かせ, 本時の学びを確認・自覚させる。


**中学校**

「小中の接続や交流を意識した指導」の工夫

・ 中学校の指導時期を若干変更して, 小6と中2が同テーマでゴール活動に臨めるように年間指導計画や単元指導計画を工夫した。  
・ 小学生の語彙力に合わせた言葉及び表現の選択を意識させながら英文を作成させる。

(3) 展開

小学校

段階	児童の活動	教師の働きかけ (小) …小学校の先生主導 (中) …中学校の先生主導	・指導上の留意点 ◆研究の重点 評 評価 (方法)
導入 10分	1 挨拶をする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(小) 笑顔で、大きな声で挨拶をする。 Good morning.</li> <li>・(小) 代表あいさつ (簡単な英語で)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオや写真で記録する。</li> </ul>
		<p>Welcome to 仙北小学校 We are 6<sup>th</sup> grade. Thank you.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(中) 代表あいさつ (簡単な英語で)</li> <li>・(中) 中学校の先生方の自己紹介と今日の学習のねらい (簡単な英語で)</li> <li>・(小) 小学校の先生の自己紹介 (簡単な英語で)</li> </ul>	
	<p>2 Let's Chant and Sing</p> <p>3 めあてとメニューを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学生のチャンツ</li> <li>・中学生の歌 (英語)</li> </ul> <p>今日の流れを確認する。(小)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のメニューを提示し、課題意識をもって活動できるようにする。</li> </ul>
	<p>友だちと協力して日本のことを紹介しよう。(小)</p> <div data-bbox="277 1335 836 1615" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Today's Menu</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Let's Chant and Sing (中→小)</li> <li>・ Let's Play</li> <li>・ Let's Try</li> <li>・ ふりかえり</li> </ul> </div> <p>4 Let's Play "Let's go hunt game"</p>	<p>リズムに乗って児童生徒が反復できるように教師が先導する。</p>	<p>雰囲気や和むようにゲームを行う。</p>
<p>Let's go hunt! (Let's go hunt!) × 2 ( ) は児童・生徒が繰り返す I have a rifle. (I have a rifle.) × 2 Wow(Wow) × 2 "Lion" L, I, O, N [Make a group of four.]</p>			

展 開 25 分	<p>5 Let's Try</p> <p>(1) グループ練習 (5分)</p> <p>(2) 発表 (20分)</p>	<p>(小) 16のグループに分かれて練習・発表</p> <p>(中) 8のグループに分かれて練習・発表</p> <p>・小学生は2回発表(5分×2)する。聞く側の中学生は小学生のグループに行き、発表を聞く。</p> <p>・中学生は壁側にブースを作る(生徒)。</p> <p>2回発表する。(5分×2)</p> <p>※5分で切るのので、やれなかった子や途中で終わった子は2回目のはじめにやる。(事前指導)</p>	<p>◆聞き手を意識しながら、友だちと協力して日本のことを紹介する。</p>
	<p>児童1人の発表例 (仙北小の紹介)</p> <p>Hello! Welcome to Senboku elementary school. (全) (日本の紹介)</p> <p>Welcome to Japan.(全)</p> <p>We have beautiful beach in Miyako.</p> <p>You can see white sand.</p> <p>It's very beautiful.</p> <p>Please visit.</p>	<p>・小学生は2回発表(5分×2)する。聞く側の中学生は小学生のグループに行き、発表を聞く。</p> <p>・中学生は壁側にブースを作る(生徒)。</p> <p>2回発表する。(5分×2)</p> <p>※5分で切るのので、やれなかった子や途中で終わった子は2回目のはじめにやる。(事前指導)</p>	<p>評 日本について絵やジェスチャーを使い、分かりやすく発表している。(学習活動の様子・振り返り)</p>
終 末 10 分	<p>6 ふりかえり・交流</p>	<p>・本時の学習を振り返って価値付ける。「今日の授業でできたことは何ですか」「気づいたことは何ですか」「交流した感想」</p>	<p>中学生も振り返りを書けるように、ノートや筆記用具などを準備していただきたい。</p>
	<p>7 挨拶をする。</p>	<p>・時間を見て各校数名発表をする。</p> <p>・挨拶をする。</p> <p>That's all for today. Goodbye! See you!</p>	<p>◆板書をもとに本時の活動を振り返り、児童生徒のがんばりやよかったところを認め、価値づける。</p> <p>◆「今日の授業でできたこと」「気付いたこと」等を視点として振り返りを書かせ、本時の学びを確認・自覚させる。 (振り返りシート・発表)</p>



中学校

段階	学習活動	指導上の留意点と評価 ( )
導入 10分	1 英語であいさつする。 2 Sing “I see the light” 3 本時の課題と授業の流れを把握する。	1 全体→代表 (小学校→中学校の順) 2 小学生のチャンツの後に中学生は英語の歌を披露。 3 中学生側の課題を確認する
<b>Today's Goal : We are Tourism Ambassadors</b> (観光大使になって都道府県を紹介しよう)		
展開 30分	4 英語を用いた交流を行う。 (1) <b>Warm-up</b> 活動 「猛獣狩りゲーム」 (2) <b>Let's Try</b> 都道府県の紹介文を聞きあう。 8グループ×2回発表 	4 (1) 小学校教師の主導で行う。積極的に小学生に声をかけるよう促す。 4 (2) 小学生→中学生の順で発表をする。グループでそれを聞きあう。発表には写真や地図を効果的に使用させる。発表が終わったら、できるだけ英語で交流させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>There is[are] ~</b>, 接続詞 <b>when, if</b> などを用いて、都道府県の名所や食べ物などを英語で紹介することができる。 <b>【表現：観察】</b>              発表の仕方を工夫し、相手に伝えようと意識して発表している。 <b>【関心・意欲：観察】</b></p> </div>
終末 5分	5 本時の振り返りを行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・自分たちが6年生の時よりたくさんの英語が話せていたような気がします。負けないように私ももっと学習をして話せるようになりたいです。私もALTの先生に中学校を英語で紹介してみたいです。久しぶりに仙小にきてなつかしい気持ちになりました。</p> </div> 6 あいさつ	5 視点(下記)を示して、ミニノートに振り返りを記入させ、記入したことを交流することで、認め合いや気づきを促す。 ① 本時でできたこと ② 次時に頑張りたいこと ③ 小学生の発表について 6 お互いの頑張りを讃えて、元気にあいさつする。

#### 4 成果と課題

##### 小学校 〈成果〉

- ・単元のゴールを「中学生に発表する」と設定したことで、意欲的に取り組むことができた。
- ・中学2年生のカリキュラムとつながりのある単元に設定したことで、小中でお互いのねらいに即した活動を同じ時間に行うことができた。
- ・小学生は、2年先輩の中学生が話す英語を聞いて憧れを覚え、中学生は、小学生の話す英語を聞いて2年間の自分の成長ぶりを実感できていた。小学生の中には、中学校の英語科の学習が楽しみになった児童も多かった。
- ・今回、小中連携による授業参観と検討会をもつことができた。小学校での外国語活動や外国語の学習が中学生にどれだけ役に立っているか不安な部分があったのだが、算数などの学習と同じように、小学生の学習の積み重ねが確実に中学生の学びに生きていることが分かり、指導者側（自分）の意欲も上げることができた。

##### 小学校 〈課題〉

- ・今回は発表形式の学習であったが、普段の授業から **Small Talk** などテーマを決めてコミュニケーション活動を組んでいくことにより、もっと双方向で英語を用いた交流が可能になりそうである。
- ・つながりのある単元が、小中で必ずしも同時期にあるとは限らないところが交流の計画を立てる際には難しさを感じた。（教科書の改訂の時期がずれていたせいもあるかもしれない。）
- ・コミュニケーションに欠かせないものとして、インフォメーションギャップが挙げられる。話し手と聞き手の間に情報の差があれば、この差を埋めるために、情報交換が行われ、コミュニケーションが成立する。今回、お互い「日本のよいところ（観光名所や伝統等）」であったため、小中間で伝える情報量の差はあったもののインフォメーションギャップは小さかったかもしれない。小学生は「知りたい」中学生は「伝えたい」という思いが生まれるような活動を工夫する必要があった。
- ・準備に時間をかけずに、気軽に交流できるカリキュラムを設定し、継続して行うことや、同じ中学校区の向中野小学校とも連携を図りながら学習を進める方向にもっていくことなど、機会があれば今後も実践を重ねていきたい。

##### 〈児童の振り返り〉

7/20	第六時	日本のことを紹介することができる。	今日は、中学生さんと日本を紹介しました。はまりと言えたので、良かったです。中学生さんの発表は、難しかったです。でも、とんとの内容を理解できました。
学習を終えて		この学習で、日本のことを私自身もたくさん知ることができました。それに、英語の聞き取り力も上がりました。最後に中学生さんと交流をしました。学ぶことがたくさんあって、中学校の英語が楽しみになりました。	

この学習で、日本のことを私自身もたくさん知ることができた。中学生さんと交流しました。学ぶことがたくさんあって中学校の英語が楽しみになりました。

学習を終えて	わたしは、学習を終えて感じたことは、自分の発表が上手だったということもあって、それ以上に、中学生さんの発表が面白かった。これからは、英語がもっと上手になるようにしたいです。
--------	--

私も中学生になったら、英語をペラペラにしゃべれるようになります。

中学校 〈成果〉

ア 小学生も同じく「日本各地の紹介文」を作成していることを踏まえて、より中学生らしさを出そうと、内容を工夫したり、英文を吟味したりする姿が見られた。小学生の手本になりたいと意欲的に取り組む生徒が多かった。

イ 今回の授業を計画するにあたり、小中の教員がお互いに授業を見合ったり、普段の生徒の学習の様子や指導方法等を交流したりする機会が得られた。小学校で築いた土台を生かせるようなスムーズな接続ができるように、今後も交流を続けていきたい。

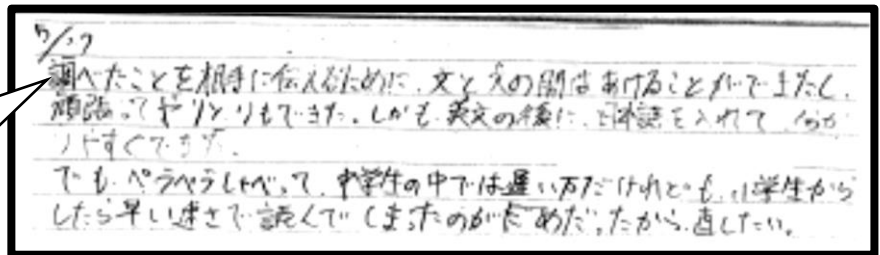
中学校 〈課題〉

ア 教科書の本文を引用すれば簡単に紹介文を書けると予想していたが、自力では書き進められない生徒も複数いた。言語活動に進む前の新出文型の習熟練習や本文の音読などを十分に行い、極力自力で作業できる力をつけさせたい。

イ 今回の交流では、学校規模の関係やコロナ対策もあり、学年全体での交流にすることができなかった。大規模校でも学年の全生徒が交流できるような方法を見つけたい。

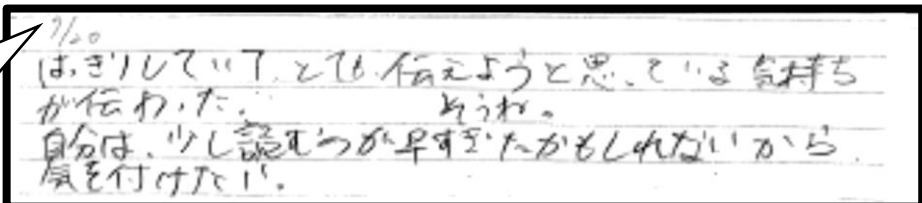
〈生徒の振り返りから〉

頑張ってやり取りもできた。でも小学生からしたら早く読んでしまったので直したい。



小学生と一緒に楽しむことができました。自分たちの発表もゆっくりわかりやすく言えたと思います。

（小学生の発表が）はっきりしていて、伝えようと思っている気持ちが伝わった。



## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

#### (1) 児童・生徒の意識の変容

どの実践にも共通していたのが、「意欲の高まり」である。特に、中学生が小学校を訪問して行った交流授業の中において、それが顕著に見られた。小学生は、中学校での外国語学習について思いを馳せ、「あの先輩のように発音することができたらいいな。」「わたしも、ぼくも、あんなふうに英語を使って発表できるようになりたい。」という主体的に学びに向かう態度の育成につながった。小学校における単位時間の振り返り活動も、中学校へ引き継がれていた。

中学生にとっては、「どうやったら相手に伝わるだろうか。」「相手がよりよく理解してくれるためには、どのような表現を用いて、どのように伝えたらよいのだろうか。」という相手意識が生まれ、外国語によるコミュニケーションにおける「見方・考え方」を働かせながら伝えようとする姿勢も育まれた。また、既習内容を思い起こすことによって、自己の現在の到達状況とこれからの学習の見通しを客観的に把握しながら学習に取り組み、自律した学習者の育成へとつながっていくことが期待される。

#### (2) 教員の意欲の高まり

教材、学習内容、そして指導法を交流しながら、1つの授業づくりを小中互いの視点から協議することによって、それぞれに大きな意義があった。小学校は、中学校での学習内容を理解することが小学校卒業時の目標設定につながり、そこから逆算した年間の指導と評価の計画を練ることができる。また、中学校は、小学校外国語活動・外

国語科の学習内容や言語材料、指導法について理解を深め、中学校入門期の指導について改めて考えることができた。互いの学習内容について知ることで指導に系統性が生まれ、小学校から中学校へスムーズに、段差なくつなげていくという視点からも、今回の実践は大変貴重であった。

また、研究員からも、小学5年生と中学1年生でも自己紹介やそこから発展させたインタビュー活動などの実践が可能ではないかという意見や、市教研のブロック研における授業提供、訪問が難しい場合にはビデオレター形式の交流、小学生の体験入学の際に、中学生が英語であいさつや学校紹介を行うことなどの日常活動における活動などの新たなアイデアが数々挙げられた。

### 2 今後の課題

#### (1) 小学校側の留意点

教科化となった5・6年生では、今後、中学校教員との連携を図りながら、評価の在り方を検討し、その力を高めることで更なる成果が上げられると思われる。また、中学校への接続を見据え、指導事項の定着を目指すあまりに単調な繰り返し練習に陥ることなく、音声で十分に慣れ親しませること、そして気持ちや思いを伝え合う言語活動を行うことを大切にしていきたい。主に学級担任が授業を行う小学校にとっては、クラス全体が、互いの失敗から学びあい、成長を助け合う関係となれば、学習もスムーズに進むため英語学習における協働性を高めていくことも求められる。

担任レベルではなく、学年、学校での組織的なまとまりでの単元デザインや評価計画を共有、校区の中学校との連絡調整が、

連携の一層の推進には求められるだろう。

## (2) 中学校側の留意点

中学校では、これまでは教科として初めて教えるという立場から、これからは小学校4年間の学習経験を経た生徒を教えることになる。そのため、これまでの指導観からの大きな脱却が必要であろう。小学校での学習のプロセスを踏襲し、帰納的な指導法であること、つまり、その過程は、文法の知識の習得のみを行うのではなく、それらを理解したうえで実際のコミュニケーションにおいて活用することができる技能を身に着けることであることが望ましい。例えば、仙北中2年生の実践にあった様に、「不定詞の名詞的用法を使って伝えあいしよう」(文法規則の演繹的提示)ではなく、「自分のしたいことが英語で言うことができる。」という学習到達度目標のもと、「友達と自由に休日の予定を立てよう！」という具体的なゴールを設定し、文法事項の解説ではなく、むしろあらゆる技能・領域を通して何度も活用させることを大切にしたい。習得を目指す文法事項は **want to**~であるが、課題を遂行するために用いる表現を限定せず、既習表現のスパイラル指導、対話を続け発展させようとする態度を育成することを通して、伝えたい事を「思考・判断」しながら、豊かに「表現」していく学びが中学校で求められていくことだろう。

## 3 おわりに

「英語教育実施状況調査」令和元年度結果に見る中学校における小学校との連携状況は 86.0% (H30=74.2% 前年度比+11.8) となっている。今回の研究は、どの学校で

も実践できること、より多くの学校で生かすことができるような研究実践を進めることを意識したが、小中連携の意義は、今更言うまでもなく、既に広く認識されていることがわかる。

小学校と中学校の連携の在り方は多様であるが、校種の垣根を越えて授業を見合うことが連携の第1歩となると考える。日々の学校生活やコロナ禍における訪問自粛等も考慮しなければいけないが、小中どちらも、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を基本としながら、互いの校種について、まず知ること、そして外国語活動・外国語科における「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざしていきたい。

## VIII 参考文献

- ・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編 (平成 29 年告示 文部科学省)
- ・中学校学習指導要領解説外国語編 (平成 29 年告示 文部科学省)
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動 (令和 2 年 3 月 国立教育政策研究所)
- ・「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 外国語 (令和 2 年 3 月 国立教育政策研究所)
- ・令和 2 年度学校教育指導指針 (岩手県教育委員会事務局学校教育室)
- ・令和元年度研究紀要 主体的にコミュニケーションを図る子どもの育成—新学習指導要領に基づく外国語活動・外国語における授業づくりを通して— (令和 2 年 1 月 盛岡市教育研究所)
- ・押さえておきたい小学校「外国語」徹底解説 (英検 英語情報 2020 Vol.2 pp.2-19)